

甲冑とは

甲冑（かっちゅう）とは、武士が戦(いくさ)で身を守るために身につけた防具のことで、甲は鎧（よろい）、冑は兜（かぶと）のことをさします。

甲冑は、平安時代後期以降、武士の登場とともに発展し、戦国時代になり、槍や鉄砲が普及して、戦の形が変化すると、甲冑もその様式を変化させてきました。より堅固でありながら、軽量で動きやすい「当世具足(とうせいぐそく)」が登場しました。「当世」とは現代(当時)のあるいは「流行(はやり)」、「具足」は全て備わっている意味を持ち、現代風の鎧(よろい)という意味で名づけられました。

武士たちは、戦場で自己を誇示し敵を威圧するために、様々な異形の変り兜をかぶりそれぞれの意匠を凝らした鎧をまとい奮戦し、敵味方に認識させたものでした。

江戸時代になり、戦もない時代には、甲冑を戦に使う機会は無くなります。甲冑は、大名家を中心に武家の格式や権威を示す役割を担うようになり、きらびやかで古風な装飾が施されるようになります。武家の家ごとに独自の甲冑スタイルが確立し、それを代々踏襲していきます。明治時代になって、武家社会が解体し近代社会に転換したことによって、武家の象徴でもあった甲冑の持つ役割は終わりました。

甲冑の文化資料としての意義

日本の武士達が着用した甲冑は、身を守るための防具としての機能美と、自らの勇猛さを敵味方に誇示するためデザインに工夫を凝らした造形美を兼ね備えているといえます。

甲冑は、鍛鉄、皮革加工、染色、漆工、彫金、象嵌、糸打などさまざまな素材を加工する技術を駆使して制作されています。甲冑は日本の美術工芸の結晶であり、それぞれの時代時代の美意識や技術水準を知る上でも貴重な文化資料ともいえます。

この特別展では、甲冑の持つ勇壮でかつ繊細な「美」を直接ご覧いただき、戦国武将や大名家の歴史に想いをはせていただく良い機会になるものと思います。

社団法人日本甲冑武具研究保存会とは

今回の特別展は、社団法人日本甲冑武具研究保存会の設立 50 周年の記念事業として、小田原市との共催で開催するものです。同会は、1962年に発足した、甲冑、武具、弓具など日本古来の武具全般の調査・研究を行い、貴重な文化財として後世に伝え保存する活動おこなう公益法人です。小田原城天守閣では、同会との共催で平成 13 年度に「武士(もののふ)の装い」を開催しています。

小田原城甲冑展のみどころ

本特別展では、小田原藩主大久保家伝来の「金小札紫糸威二枚胴童具足(きんこざねむらさきおどしにまいどうわらべぐそく)」、「桐唐草鳳凰丸文金襴大久保藤紋陣羽織(きりからくさほうおうまるもんきんらんおおくぼふじもんじんばおり)」をはじめ、米沢藩主上杉景勝の「伊予札萌黄糸綴両引合胴具足(いよざねもおういとつづりりょうひきあいどうぐそく)」、薩摩藩主島津家の「金小札浅葱糸威両引合胴具足(きんこざねねぎいとおどしりょうひき)」、筑後久留米藩主有馬家伝来の「大熊・小熊の具足」、久保田藩主佐竹義和所用の「金小札薄紅糸威腹巻具足(きんこざねうすべにいとおどしはらまきぐそく)」など、戦国武将のゆかりや近世大名家に伝わる、いずれも日本甲冑の優品といえるものばかり、41点が展示されます。

これらの甲冑は、主に社団法人日本甲冑武具研究保存会会員の所有のものですが、中には門外不出のものもあり、これらが一堂に展示されることは初めのこととなります。

初めての里帰り、小田原藩主大久保家伝来の甲冑と陣羽織

今回の展示では、小田原藩主大久保家伝来の「金小札紫糸威童具足」と「桐唐草鳳凰丸文金襴大久保藤紋陣羽織」が初めて小田原で展示されます。この資料はこれまで大切に保管されていたもので、世に出るのが初めてとなります。

○大久保家伝来「金小札紫糸威二枚胴童具足」

鎧の着初めや元服の際に着用した少年用の小振りな仕立ての甲冑を童具足と呼んでいます。少年用と言っても成人用の甲冑に比較してその仕立ては何ら遜色なく、かえって精緻で入念な造りのものが多いと言われています。童具足は大名や富裕な武家に限り製作され、何代にも渡って使い回すこともあり、遺品の数は少ないとされています。

兜は円山形星鉢の星を金星とし、吹返には「大久保藤」紋を、同様に胸板や冠板等の金具廻や杏葉にも「大久保藤」紋を金蒔絵してあります。

本品は旧小田原藩主大久保家の伝来品で、昭和九年の大久保家売立目録に掲載されたものです。所用者等不明ですが、作風から元禄頃の製作と考えられ、幕府老中を勤めた四代藩主大久保忠増(一六五六―一七一一)あるいは五代藩主大久保忠方(一六九二―一七三二)あたりの所有が推定されています。

○桐唐草鳳凰丸文金襴大久保藤紋陣羽織

豪華な桐唐草鳳凰丸文の金襴の生地を使い、背には黒羅紗で大久保藤紋を切り付けています。造りは極めて精緻入念で、小田原藩主大久保家伝来の色目鮮やかな陣羽織です。

写真1 大久保家伝来「金小札紫糸威二枚胴童具足」



写真2 桐唐草鳳凰丸文金襴大久保藤紋陣羽織



写真3 米沢藩主上杉景勝の「伊予札萌黄糸綴両引合胴具足」

